NEWS RELEASE

2024 年 5 月 28 日
株式会社三菱総合研究所
三菱総研DCS株式会社

日本企業の DX 推進状況調査結果【2024 年度版】を公表

「経営戦略と DX の連動」や「人間と AI の分担」がビジネス変革の鍵

株式会社三菱総合研究所（代表取締役社長：籔田健二、以下 MRI）と三菱総研DCS株式会社（代表取締役社長：亀田浩樹、以下 DCS）は、売上高 100 億円以上の国内民間企業を対象とした「DX 推進状況調査」を実施し、レポート「VUCA への『対応力』が企業を変革する～『経営×DX の連動』と『ヒト×生成 AI の共創』～」をまとめました。3 年連続調査におけるデジタル化の推移や「先進企業」の特徴、VUCA への対応力などについて、調査結果を公表します。

1. 背景

近年、企業を取り巻く環境はますます複雑で多様なものになり不確実性が増しています。変化が速い経営環境における企業成長のためには、企業価値の向上に資する DX が必要です。
DX 元年である 2021 年に開始した過去 2 回の独自調査では、DX の進展度（デジタイゼーション、デジタライゼーション、ビジネス変革への取組状況）、推進課題、解決策を確認しました。3 回目となる本調査では、DX が一般化したことから、特に変化が激しい外部環境への対応状況に着目。調査のスコープを DX から経営領域まで拡大し、VUCA※への対応状況を分析しました。

※VUCA—Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字。震災や紛争、疫病、技術革新等により社会の先行きを見通すことが難しくなった状況を表す概念。

2. 調査結果

■概況

・3 年連続調査の経年比較において、デジタル化の 3 段階の構成割合に大きな変化なし。

・先進企業（ビジネス変革に取り組み売上成果も出せている企業）ほど、外部環境に柔軟に対応できる体制が整っており、経営戦略と DX の取り組みが連動。

■ポイント①：経営×DX の連動（「経営観点」での VUCA 対応）

・「外部環境への柔軟な対応体制が整っており、変化に即座に対応できる」ほど、売上成果が出ている。

・経営戦略と DX の取り組みが、内容面または指標面で連動しているほど、売上成果が出ている。

・DX は単独で実施するのでなく、外部環境に応じて策定した経営戦略を推進する手段と位置づけることが有効。KPI 設計時は、DX の評価指標と経営・事業 KPI を紐づけることがポイント。

■ポイント②：ヒト×生成 AI の共創（「テクノロジー観点」での VUCA 対応）

・データ・AI で意思決定を自動化するのでなく、部分的な導入を目指す割合が増加。データ・AI と人間で役割分担して意思決定する傾向あり。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

・新たな技術トレンドである「生成 AI」について、ビジネス変革企業ほど幅広い用途で業務活用。

・「生成 AI」には、正確性やリスクの観点から人間のチェック・フォローが必要な領域もある。出来ることや精度を見定め、「ヒト×生成 AI」の役割分担に基づき業務設計することが重要。

詳細は調査レポートをご覧ください。ご希望の方は、下記フォームにアクセスのうえ必要事項をご入力ください。折り返しダウンロード用 URL をご案内します。

調査レポート【VUCA への「対応力」が企業を変革する
～「経営×DX の連動」と「ヒト×生成 AI の共創」～】を申し込む

関連イベント「MRI DXDAY（7/17Web 開催）」はこちら

■レポート内容・構成

第 1 章　エグゼクティブサマリ

第 2 章　はじめに（VUCA への「対応力」とは？）

・DX が企業価値の向上に資する 3 ステップの解説

第 3 章　日本企業のデジタル化の概況

1.デジタル化進展度の推移

2.先進企業と非先進企業の比較

第 4 章　ポイント①：経営×DX の連動（「経営観点」での VUCA への対応）

1.　＜A＞外部環境に応じた経営戦略策定

・「外部環境への対応体制」と「売上成果」のクロス分析

・影響を受けた外部環境要因について、デジタル化進展度別、業界別にクロス分析

2.　＜B＞経営戦略の実行手段としての DX 推進

・「経営戦略と DX 計画・取り組みの連動（内容面・指標面）」と「売上成果」のクロス分析

・「経営戦略と DX 計画・取り組み」が連動できない要因調査

第 5 章　ポイント②：ヒト×生成 AI の共創（「テクノロジー観点」での VUCA への対応）

・意思決定におけるデータ・AI の活用度

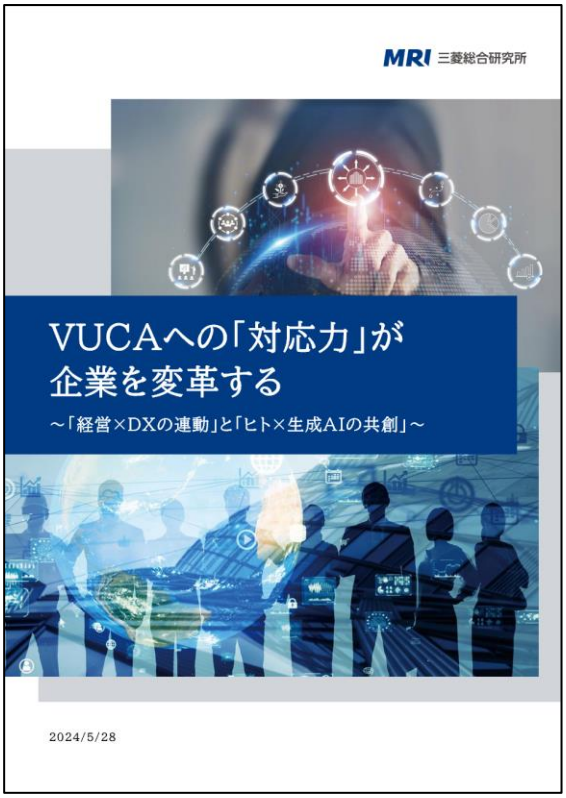
・生成 AI の業務での活用度（全体・業界）、用途、懸念、デジタル化進展度との関係

第 6 章　まとめ

第 7 章　APPENDIX（DX 各種取組のデータ）

・ビジョン策定・実行、KPI 活用、投資、成功要因、推進課題、意思決定におけるデータ活用（業界別）

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.



【参考】調査概要

（1）調査時期：2023 年 12 月

（2）調査方法：Web アンケート

（3）調査対象：

対象企業：直近 1 年間の売上高が 100 億円以上の企業

回答者：自社内のデジタル化・DX の取り組みに関与している従業員 1,000 名

■関連イベント「MRI DXDAY（7/17Web 開催）」のご案内

調査レポートのテーマ「VUCA への『対応力』が企業を変革する～『経営×DX の連動』と『ヒト×生成 AI の共創』～」に関して、全 20 講演の 1DAY イベント「MRI DXDAY」を7月 17 日に開催します。

日本を代表する企業のリーダーの実体験にもとづく基調講演や、三菱総研グループにおけるお客さまの取り組み事例、最新のトレンドなどをもとに、企業経営や業務課題の解決に資する「DX 推進実務のノウハウ」を一日でお伝えします。

2つのカテゴリの講演を用意しています。

・カテゴリ A：経営×DX の連動

先行きの読めない VUCA 時代における企業成長への取り組みを「経営戦略と DX 実行の連動」視点で解説

・カテゴリ B：ヒト×生成 AI の共創

さまざまな業務への AI 技術適用を実現し圧倒的な時短と高度化を実現する「人間と AI の分担の事例」を解説

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

基調講演では、経済産業省による DX 銘柄 2023 グランプリに選出された日本郵船株式会社 執行役員 グループ CIO 高橋泰之氏、2023 年 2 月に生成 AI のグループ全社導入をいち早く打ち出し企業への最新テクノロジー組み込みを先導するパナソニック コネクト株式会社 執行役員 アソシエイト・ヴァイス・プレジデント CIO 河野昭彦氏から、取組推進の上での課題や苦労、その解決策について実体験を元に講演いただきます。

DXDAY 詳細はこちら

▼概要

・タイトル「VUCA への「対応力」が企業を変革する～「経営×DX の連動」と「ヒト×生成 AI の共創」～

・日時：7 月 17 日（水）10 時～17時（予定）

・会場：オンライン開催

・共催：株式会社三菱総合研究所、三菱総研 DCS 株式会社、株式会社アイネス、日本ビジネスシステムズ株式会社

・申し込み URL：https://dx.mri.co.jp/dxday/

タイムテーブルを見る

DXDAY 詳細はこちら

本件に関するお問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所
〒100－8141 東京都千代田区永田町二丁目 10 番 3 号

【内容に関するお問い合わせ】
デジタルイノベーション部門
統括室 梅田、平島
メール：service@mri.co.jp

【報道機関からのお問い合わせ】
グループ広報部
メール：media@mri.co.jp

三菱総研DCS株式会社
〒140－8506 東京都品川区東品川四丁目 12 番 2 号
広報部
メール：kouhou@dcs.co.jp

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.